

第3講 表現の2形式

基本5文型の動詞の意味とその発展(†の記号は認識表現)

- i) 第1文型…SVの構文→Vは『存在』を表す。
- (a) Sが具体的な名詞の場合→Vは「～がある, ～がいる」
At the door is a notice-board.
「ドアのところに告知板がある。」
- (b) Sが抽象的な名詞の場合→Vは訳さない。
† The emphasis is on rote memorization.
「機械的な暗記が強調されているのである。」
- ii) 第2文型…SVCの構文→Vは『存在状態』を表す。
- (a) S, Cが具体的な名詞の場合→Vは「～である, ～になる」
The boy became a good pilot.
「その少年は優秀なパイロットになった。」
- (b) S, Cが抽象的な名詞の場合→Vは訳さない。
† His failure in business is the result of his neglect of rules.
「彼が規則を守らなかったので, 彼は事業に失敗した。」
- (c) Sが具体的な名詞で, Cが形容詞の場合
† The girl is attractive (because she talks kindly to me).
「その女性は魅力的である。というのも私に優しく話しかけてくれるからである。」
- (d) Sが抽象的な名詞で, Cが形容詞の場合
† His command of English is good.
「彼は上手に英語を使いこなすのである。」
- iii) 第3文型…SVO(M)の構文→Vは『SのOに対する作用』を表す。
- (a) Sが具体的な名詞で, Oが不定詞の場合→Vは『願望・意志』を表す。
「～しようとする, ～するつもり」
The boy decided to study abroad.
「その少年は留学しようと思った。」
- (b) Sが具体的な名詞で, Oが動名詞の場合→Vは『経験・想像・認識・判断』を表す。
「～を思い浮かべる, ～を(経験して, 思い浮かべて)判断する」
I hate going to school every day.
「毎日学校に通うことを思うといやになる。」

- (c) Sが具体的な名詞で, Oがthat-節の場合
→Vは i) 『認識・提言』 ii) 『主張・提案』 iii) 『願望・祈願』を表す。
- i) I think that he is honest.
「私の考えでは, 彼は誠実な人である。」
- ii) I demand that he (should) be honest.
「私が求めることは, 彼が誠実であることだ。」
- iii) I wish that he were honest.
「私が願うことは, 彼が誠実であればということである。」
- (d) Sが具体的な名詞で, Oがif-節およびwh-節の場合→Vは『疑念』を表す。
「～かどうかと思う, ～かどうか調べる」
The doctor felt if my left leg was broken.
「医者は私の左足が折れているかどうかを触れて調べた。」
- (e) Sが具体的な名詞で, Oが具体的な名詞の場合→Vはそれぞれ個別の意味。
My wife likes fruits.
「私の妻は果物が好きだ。」
- (f) Sが抽象的な名詞の場合→Vは形式的なもので訳出しない。
- i) Oが抽象的な名詞, 動名詞, that-節の場合
† The last ten years have seen a remarkable development of computers.
「過去10年の間にコンピュータは目覚ましく発展を遂げてきた。」
† Your story explains his looking gloomy.
「君の話聞いて彼が憂鬱な顔をしているわけが分かる。」
† Her remarks suggested that she was angry.
「彼女の言葉を聞いて彼女が怒っていることが分かった。」
- ii) OMがひとつの単位の場合
† His success provided his family with hope and vitality.
「彼が成功したことで彼の家族は希望と活力を得たのであった。」
† The heavy rain prevented him from going out.
「激しく雨が降って, 彼は外出することができなかったのであった。」

《実践問題》

直訳と意識を考える

次の各英文を読み，和訳しなさい。

- ① (a) The increasing emphasis is on the fact.
(b) The quick destruction of the Empire was inevitable.
(c) They have given an accurate analysis of the fact.
- ② (a) What is taught in the schools should contribute to an understanding and appreciation by each pupil of the environment in which he is to live and play his part.
(b) Man's love of a quiet life and his resistance to anything that threatens his mental harmony account for his dislike of change.
- ③ (a) Amidst the pressures of contemporary society it is difficult for a child to preserve his talent for observation, for which he needs unhurried time and quiet.
(b) Passive acceptance of the teacher's wisdom is easy to most boys and girls. It involves no effort of independent thought, and seems rational because the teacher knows more than his pupils; it is moreover the way to win the favour of the teacher unless he is a very exceptional man.
- ④ This is all the more curious, because I find it easy to like almost any tame animal, from a horse to a hen, from a cow to a cat. As a child, I could spend hours in a stable without being bored, and to sit on the bare back of a plough horse, holding on by his mane as he was led to the pond for an evening drink, was to be a boy placed on the throne.
- ⑤ (a) We hear it said with tiresome repetition that ours is a materialistic age, the main concern of which should be the wider distribution of goods and worldly opportunity.
(b) Why are people so upset by the idea that they might be machines and nothing more? The trouble is in the way we use language.

《講義のまとめ》

① 事実表現と認識表現

- (1) 事実表現 SVM, SVC, SVO の S, C, O がそれぞれ具体名詞の場合。
→英語と日本語を一对一で直訳する。

(2) 認識表現

→英語と日本語を一对一で直訳せず，意味上の関係（文法的意味）を把握して意識する。

- (i) (a) SVM, SVC, SVO の S, S, O がそれぞれが抽象名詞の場合
→V は形式動詞で副詞又は助動詞的役割を果たす。

- (b) SVC, SVO の SC, SO がともに抽象名詞の場合
→V は形式動詞で接続詞的役割を果たす。

- (ii) S+V+C の C に主観的判断を表す形容詞が用いられる場合
→直後に客観的理由説明となる文がくる。

- (iii) SVOM, SVOC, SVOO の語法をとる場合
→OM, OC, OO と同内容の反復詳述文が直後にくる。

- (iv) 判断・認識を表す文修飾の副詞（名詞節の that-節に導かれた文）や認識・推量を表す助動詞を伴う場合
→～ that までを文頭に副詞と考える。

《倒置構文の整理》

① 倒置の形式と意味

(a) SVMの倒置

- (i) SVM→MVS ⇨ 新たな話題名詞を提示する

On the top of the mountain stand various monuments, which attract the attentions of those visiting there.

⇨その山の頂きには、様々な記念碑が立っており、そこを訪れる人々の目を引いている。

- (ii) SVM→M 助動詞SV ⇨否定副詞を文頭に置き、呼応する but の以下の内容を強調する

At no time has she forgotten that she owes to her husband what she is and what she has.

⇨これまで、彼女は一度たりとも、今の彼女のあるのは、彼女の夫のおかげであることを忘れたことはないのである。

(b) SVCの倒置

- (i) SVC→CVS ⇨ 文頭の名詞が不特定で、Vの後に特定名詞が置かれるような場合の名詞の場合は、特定名詞が、その段落の話題の中心と考える。

A dominant trend of the period is the rise of the scientific method, both in the natural and in the human sciences.

⇨現代の大きな傾向のひとつに、自然科学及び人間科学の両分野において、科学の方法論が起こったことがある。

- (ii) SVC→CVS/C 助動詞SV ⇨文頭に形容詞を置き、CVSと倒置する場合は補語の形容詞を強調し、筆者の積極的主張を示す。

Fortunate indeed should we be could we but exchange our imperfect vision for sight like that of an eagle.

⇨もし、我々が、我々のもつ不完全な視覚とワシのもつ視覚のような視野とを交換することさえできたら、どんなにか幸せなことであろうかと思うのである。

(c) SVO C or Mの倒置

- (i) SVO C or M→SVC or MO ⇨ 目的語となる名詞節や抽象名詞を、補語や副詞句に後置させ（後置目的語の構文）、筆者の認識提示をする。

We should bear in mind that happiness in life does not consist in what he has but in how he lives.

⇨心に留めておいていただきたいことではあるが、人生は、財をなすことにあるのではなく、生きざまにあるのである。

- (ii) SVO→OSV ⇨ 目的語を文頭に置き、それを含む文に呼応する、筆者の主張部分を強調する。

Every historian would agree that history is a kind of research or inquiry. What kind of inquiry it is I do not ask yet. The point is that it belongs to what we call the sciences.

⇨歴史家の方であれば、賛同していただけたと思いますが、歴史は、一種の探求の学問である。いかなる探求の学問であるかについては、まだ提起してはおりませんが、私が言いたいのは、歴史は、我々が科学と読んでいる学問のひとつであるということでもあります。